

長野トンネル探訪

市史編さんだより(10)

7月12日、伊賀市と津市を結ぶ国道163号線新長野トンネルが開通しました。古くから「長野トンネル」の名は三重県内では親しまれた名称で、明治以降の新聞記事をみていくと、さまざまなことがわかります。

国道163号は、かつては伊賀街道と呼ばれ、津と上野を結ぶ近世からの主要な道路でした。間に立ちはだかる長野峠は難所で、藤堂藩は防衛上の理由からこの長野峠を切り開くことをしなかつたといえます。

明治11年(1878)、住民達は協力しあって峠を切り開こうとし、その計画はさらに発展して明治19年(1886)、トンネルを完成させるに至りました。それは伊賀側と伊勢側の住民がお金を出しあって完成したもので、これが初代の「長野トンネル」です。その長さは約54mであつたとされていますが、それまで険しい山道を荷車を押して荷物を運搬していた多くの人々にとってはうれしい出来事でした。

昭和13年(1938)、軍事的な必要性と、自動車の発達によって古いトンネルより下に2代目のトンネルが造られました。その位置は、初代の14m下(現津市側は18m下)となり、延長約300m、幅55mとなりました。これが最近まで長野トンネルとして利用されてきたものです。古老によると、以前は2代目のトンネルの上に初代のトンネルが見えた

といえます。現在は、雑草に覆われ往事を偲ぶことができませんが、ここで掲載した写真は、津市側から写した写真で『美里村史』に掲載されたものです。おそらく伊賀市側もこのように見えたのでしょう。

古い長野トンネルに通じる険しい山道を見て、荷物を担いだり、荷車を押す昔の人たちの姿に思いをはせると、生活するため、あるいは子どもたちを養うためとはいえ、そのたくましさに驚かされるものがあります。

3代目長野トンネルは、初代・2代のさらに下方に建設され、長さも約2kmにも及ぶもので、最新の設備が施されています。伊賀の歴史の中で、鉄道や道路が住民の生活に果たしてきた役割には、はかりしれないものがあります。これらもさらなる貢献をしてくれるものと思います。

本庁総務課市史編さん係 ☎52・4380



▶長野トンネル(上…初代、下…2代目)
『美里村史』上巻から)

ご長寿おめでとございます

9月15日は「老人の日」、9月15日から21日までの1週間は「老人週間」です。これは、「老人を敬い慰め、励ますとともに、老人福祉に対する国民的理解を促進し、老人自身もまたその立場を自覚し、新しい社会建設に参加する」ことを目的に設けられています。

市内でも各老人福祉施設や自治会でご長寿をお祝いする記念式典が開催されました。

また、市からも敬老祝い事業として、米寿396人、白寿28人、そして100歳以上38人の方に、これまでの貢献に感謝し、あわせてご長寿をお祝いさせていただきました。

誰もが健康で安心して生きがいを持った生活を送ることのできる活力ある長寿社会を築く事は大切な課題となっています。それには、日ごろからの介護予防を推進し、生きがいや健康づくりの取り組みが不可欠です。

また、地域福祉向上のためには高齢者の培われた知識・経験や能力を生かし、誰もがその役割を理解して、互いに協力しなければなりません。

この老人の日・老人週間をきっかけに、今後到来する超高齢社会の中で、自らの高齢期のあり方について考えてみてはいかがでしょうか。



市の花
ササユリ



市の木
アカマツ



市の鳥
キジ

平成20年10月1日 発行/伊賀市 編集/企画振興部広聴広報課
〒518-8501 伊賀市上野丸之内116番地
TEL 22・9999 FAX 22・9917 <http://www.city.iga.lg.jp/>